

町田第三小学校跡地活用ワークショップ 2025 まちさんかいぎ 開催レポート

第1回

～ひろばなどの地域の居場所ができたらどんなことができるかな～



10月26日（日）、町田第三小学校体育館にて、第1回「まちさんかいぎ」を開催しました。

町三小跡地が「ひろばを含む地域の居場所」となった場合に、どんなことができるかをゲストの講演や体験を通してみんなで考える会です。あいにくの雨となりましたが、町三小の周辺にお住まいの方や町三小の在校生など大人30名、子ども20名の計50名の方が集まってくれました。昨年度に実施したワークショップに続く「まちさんかいぎ」は、大人も子どももいろんな世代が集まった、にぎやかなムードの中で行われました。

当日のプログラム

当日は、大人と子どもに分かれたプログラムでそれぞれ「ひろばを含む地域の居場所」の使い方を考えました。

大人はゲストの方々の講演を聞き、ゲストとのディスカッションをして、子どもは大きな地図（ガリバーマップ）へ町三小跡地で将来やってみたいことを書き込んだり、跡地に地域の居場所ができたらどんなことができそうか体験したりしました。最後は全員できあがったガリバーマップを囲み、今後の跡地活用のイメージを膨らませました。

■当日のプログラム

子ども向け	大人向け
はじめに	
町三小の次の使い方について、「まちさんかいぎ」の目的	
【お話】みんなの子ども食堂さくらんぼう 森下さん	
＜移動しよう＞	
Aグループ	Bグループ
2つのガリバーマップをつくろう！	どんなところができるか体験してみよう
【お話】横浜市立大学大学院 三輪先生	
プレイタイム（AとBで入れかわろう）	プレイタイム（子どもの様子を見学）
どんなところができるか体験してみよう	ディスカッション
2つのガリバーマップをつくろう！	（森下さん、三輪先生への質問タイム）
ガリバーマップを見てみよう！（発表）	
まとめ（三輪先生）	
市からのお知らせ・写真撮影	

「まちさんかいぎ」の目的

「まちさんかいぎ」をはじめるにあたり、町田市から町三小跡地活用の検討状況とこの会の目的を説明しました。昨年度実施したワークショップで出されたアイデアを参考につくられた「活動でみんながつながれる場 まちさんプレイス」という町三小跡地活用のコンセプト（素案）や、敷地の使い方について紹介しました。

その内容を踏まえて、「まちさんかいぎ」では、ひろばを含む地域の居場所でどんなことができるかをゲストの講演や空間体験を通じて、みんなで考えていきたいことをお伝えしました。

参加しているみなさんは、時折うなずきメモを取りながら、お話を聞いていただきました。



ひろばなどを使った地域の居場所づくりの取り組み紹介

みんなの子ども食堂さくらんぼう 森下和海さん 鹿島亜樹さん

◇ つながりつづけること

参加者のみなさんに、地域の居場所を具体的にイメージしていただくため、市内の小山田桜台団地内にある地域の居場所や公園などの屋外を使いながら、「遊び場付子ども食堂」などを運営している「みんなの子ども食堂さくらんぼう」の



森下さんと鹿島さんのお話を伺いました。お二人がどんな思いで活動を始めたのか、どんな活動をしているのかなどについて、子どもたちが楽しく遊んだり、子ども食堂で美味しいそうに食べている様子の写真を数多く織り交ぜながら、ご紹介いただきました。森下さんからは、地域の子どもたちと一緒に食事をとること、遊ぶことを通じて、親や学校以外のつながりをつくることの大切さや、地域の方とも根気強く話し合い、協力し合いながら運営していることなど、地域の居場所をつくる活動をされている方のリアルなお話を聞いていただきました。



ひろばなどの地域の居場所があることの大切さ

横浜市立大学大学院教授 三輪律江先生

◇ 「その場を使う→場の担い手となる」というサイクル

側で子どもたちが遊んでいる中、大人の参加者は、「居場所」としての都市空間のあり方の研究などをされている横浜市立大学の三輪先生のお話を聞きました。「いまここでは、子どもたちの声がよく聞こえて、にぎやかだよね。町三小の跡地も、こんな場所になるといいよね」と笑顔のコメントから、講演が始まりました。

講演では、三輪先生が関わっている横浜市金沢区にある団地内の空き店舗を活用した居場所づくりの事例をご紹介いただきました。地域の居場所をつくるためには、



ただハードとしての場所をつくればよいということではなく、そこに来てもらうために、外から中の活動がよく見えるようにするなど設えの工夫も必要だということ。また、場の担い手の育て方、場づくりのプロセスも大事であり、そこに来るハードルが高くなく、“ちょっと寄れる”という積み重ねが、その人の居場所になり、そういう人が次にはその場の担い手になっていく…というサイクルが生まれるとよいというお話をいただきました。

ディスカッション（参加者から森下さん、三輪先生への質問タイム）

講演を終え、参加者のみなさんには、ふせんに質問を書いていただきました。たくさんの質問や感想をいただき、それに答える形でディスカッションを行いました。ここではやりとりの一部をご紹介します。



○スタッフの確保や活動 PR の仕方など、どのように運営されているか教えてください。

(三輪先生)

横浜市金沢区の事例でお話すると、スタッフについて、当初は、この場所に関心があつて集まっている人に、それぞれにできることをお願いしていたのですが、そのうち、シニアの方や小学生が自分の得意なことを周りの人に教えてくれるようになりました。

活動の PR ということで言えば、街づくりニュースをつくって、企業などいろいろな人に丁寧に活動内容を説明して周知していきました。担い手については、こんな人に一緒に活動してほしいということをチラシや HP を通じて募集したのですが、意外と手を上げてくれるんです。そこからどれぐらいその人たちが本気で運営側に入ってくれるかはその人がその活動を面白いと思ってくれるかです。

あとはちょっとだけお金が出るといいと思います。無償ボランティアっていうのはありがちな話ですが、こういったコミュニティ活動に、コワーク的というか、ちょっとした対価があるとモチベーションにつながるというのもあります。

(森下さん)

さくらんぼうは、ママ友達2,3人で始めた活動ですが、こうした活動をやりたいと考えている人は結構いるということを、始めてみて知りました。さくらんぼうが大事にしていることは、「できる人が、できるときに、できるだけ」ということ。さくらんぼうを運営していくのに、それぞれの負担をなるべく減らし、難しい場合は地域の方などにお手伝いをお願いする、それで思いがけないつながりができたりもします。こうしたことを通じて、自然に、自分から関わってくれる人が増えています。

- これまでいろいろと関わられた経験から、この町三小の居場所としてのポテンシャルについてどのような印象を持っていますか。

(森下さん)

今日、初めて町三小に来たのですが、自然もあり、斜面地は子どもが大好きな場所なので、とてもよい場所だと思いました。皆さんが来てくださる居場所になると確信しています。

(三輪先生)

こうした居場所の取組みは、ゴールがないと思っています。町三小の場合、まだ検討ははじまつたばかりだと思います。2030年ころに活用開始となると思いますが、そこが終わりではなく、その先もあるんです。地域でもっと盛り上げていこうよという動きがないと、時間が経つにつれ、盛り上がりは下がっていってしまいます。頑張って盛り上げる必要もないんですけど、楽しみながら持続することがあるとよいと思います。

まだまだお二人から話を聞いてみたいなど名残惜しさを残して、終了しました。

また、時間の関係で触れることができなかったご質問については、後日、三輪先生と森下さんに伺いました。以下にご紹介します。

【三輪先生への質問】

- 主体的に関われない人を、居場所へ誘うにはどのような方法がありますか。



まずは「主体的」の前に「場」に来てもらうことが第一歩です。その際にまずはお互いが「楽しい」仕掛けが欲しいですね。
樂しければまた来たい！となり、この場に来続けるために、来る理由や役割を自ら見出してくれるのでは？という期待を込めて。

- 中高生の居場所が不足しています。多世代の居場所としつつも自習室など中高生の居場所とするコンセプトの可能性はありますか。

十分ありだと思います。その際は、ぜひ中高生に対して、直接どんな活動をしたいか、そのためにはほしい必要な設備（例：wifi）や諸室（例：音楽室）はなにか、利用に際して他世代との共存のルールも一緒に考えるように呼び掛けてほしいですね。



【森下さんへの質問】

- 子ども食堂の運営について、地域のほか、学校とはどう連携していますか。



町田市青少年健全育成小山田地区委員会の委員として、小学校や中学校と連携しているほか、子どものことについて相談事が出てきたときには直接赴いて話し合いをしています。
チラシの配付や防災キャンプで使わなかつた容器などを寄付していただいたりしています。

- みんなが気持ちよく使える場とするための工夫、対策はどんなことをしていますか。

活動のルールを定めて、ボランティアさんに共有しています。具体的には、①子どもの話を否定せずに聞くこと。間違っていると思うことも、「そう思ったんだね」と受け止めてあげる。ただし、本人や周囲の人に危険が及ぶ時には遠慮なく注意。②大人に対しても、悪口NG。ルールが守られないときには、一定期間、ボランティア参加を断ったケースもあります。約束を守ってくれるようになったら、活動に復帰していただいている。



跡地で何する？ マップづくりや体験を通して考えてみよう！

子どもたちは2つのグループに分かれ、跡地でできそうなことを実際にやってみる「空間体験」と、大きな地図の上に乗ってやりたいことを考える「ガリバーマップ作成」を通して、町三小跡地にできるひろばや地域の居場所での過ごし方、やってみたいことをみんなで考えました。

◇ 空間体験～ひろばなどの地域の居場所をイメージして、思い思いに過ごせる空間を体験してみよう！～

空間体験では、みんなの子ども食堂さくらんぼうの鹿島さんを中心に、町三小跡地が地域の居場所となった場合の空間をイメージして、ダンボール遊びや塗り絵、けん玉、魚釣りゲームなど、思い思いに過ごす体験をしてもらいました。コンセプトにある「活動でみんながつながれる場」のイメージが湧くような光景でした。



◇ガリバーマップづくり～町三小巨大マップに書きこもう！～

ガリバーマップづくりでは、たて 3.3m×横 4.7m の大きな地図＝ガリバーマップを2種類（「現在の町三小マップ」、「町三小将来マップ」）使って町三小跡地の活用をみんなで考えました。

「現在の町三小マップ」では、町三小に通う子どもたちにお気に入りの場所とその理由を教えてもらいました。

「町三小将来マップ」では、町三小の跡地にひろばなどの地域の居場所ができたら、どんなことがしたいかを考え、「やりたいことカード」を貼ってもらいました。

子どもたちは次から次へとマップに手を伸ばし、あっという間に、大きなマップが見えなくなるくらいの数のお気に入りの場所ややりたいことの書き込みで埋め尽くされました。

子どもたちの言葉を見てみると、共通して、「友達と」「みんなで」というキーワードが多くありました。自由に好きなことができるだけではなく、「誰かと」、「みんなと」過ごせることを大切に思っていることがわかりました。



◇ 「お気に入り」があふれる ~現在の町三小マップ~

「現在の町三小マップ」は、子どもたちのお気に入りの場所を示す星と吹き出しで埋め尽くされました。その中でも特に多かったのは、校庭や体育館、プールといった場所。校庭では、「みんなで遊べるから」「おにごっこやドッヂボールなど、広くて色々な遊びができるから」、体育館では「運動が好きだから」「大きくてみんなでたのしめるから」、プールでは「楽しくて夏にぴったりだから」「みんなで泳げるから」などの理由が書かれていました。その他にも、本が読める図書館や自然が多くたけのこ掘りができる斜面など、子どもたち一人一人の「お気に入り」がマップにあふっていました。



◇ 「やりたい」が膨らむ ~町三小将来マップ~

「町三小将来マップ」には、子どもたちの「やりたいこと」が自由にちりばめられました。跡地活用のコンセプトに沿って敷地を大きく3つにゾーン分けし、それぞれのゾーンでやりたいことを考えました。現在の校庭あたりの「①さまざまな体験・活動ができる広場」では、川遊びやアスレチック、遊具を使った遊びや斜面付近でドングリ拾いなどが、現在の体育館あたりの「②だれでも自由に使える広場」では、アウトドア広場や星空観察、バドミントン、かくれんぼなど、まさに「自由に」やりたいことが書かれていました。また建物をつくる予定の「③みんながつながれる地域の居場所」では、本を読みたい、料理をしたい、といった意見も複数ありました。その他にも、付近のひなた村でやったことがある陶芸をこの場所でもやりたいという意見など、子どもたちが思い思いに膨らませた「やりたい」がマップに表されました。



ガリバーマップを見てみよう！ あそびを振り返ろう！

◇ 活用に向けたたくさんのヒント

最後に、完成したガリバーマップを参加者全員で囲み、実際にどんなことを書いたのか子どもたちが発表してくれました。

発表を受け、三輪先生からは、子どもたちの発想がこの町三小跡地活用にたくさんのヒントやアイデアを与えてくれること、そしてそのヒントやアイデアを活かしながら、どう居場所をつくっていくかを考えることが大切であることを、ワークショップ全体の振り返りとしてお話いただきました。

また、子どもたちの空間体験を見守った鹿島さんからは、町三小が跡地となった後も、今日のように子どもたちが元気に遊ぶ姿がみられる居場所になってほしいと、今後の跡地活用に期待を寄せていただきました。



最後は全員でガリバーマップを囲み、集合写真を撮影！

お問い合わせ

町田市政策経営部企画政策課 公共施設再編担当

電話 : 042-724-2103

メール : mcity2980@city.machida.tokyo.jp

